一般質問

内陸線存続に向けての市の取り組みの状況について

仙北市消防団の欠員状況、団員確保について

浅利則夫

質問　内陸線再生支援協議会で、平成二十二年度を目標に乗車人員を八十二万七千人に設定し、計上損失額を一億五千万円以内に圧縮する再生計画を示した。この目標達成は非常に高いハードルではあるが、絶対到達できないハードルではない。内陸線存続に向けての市の取り組み状況と今後の施策について伺う。

市長　存続の方向で最大の努力をする。取り組み状況については、五月に庁舎内に秋田内陸線再生チームを構成し、内陸線存続に向けた諸問題や沿線の状況等について調査・検討している。又、チラシ・広報によるPRもしている。民間では、秋田内陸縦貫鉄道を守る会が設立され、行政としても支援し、共にがんばっていきたい。

質問　角館・田沢湖地区の住民にとっては今まで利用度が低いことから、存続への思いに温度差があるように感じる。守る会も含めながら、地域住民と再生チームが共になって運動して行くべきと思うがどうか。

市長　守る会、地域住民、再生チームと連携をとってやっていく。存続の思いにある温度差もなくすよう努力していく。

質問　消防団の活動を十二分に発揮する為にも欠員をなくし、十分な人員で危険な活動に取り組めるようにして頂きたい。現在の欠員状況並びに団員確保の施策について伺う。又、市職員等の公務員の消防団入団要件について伺う。

市長　定員七百六十七名に対して百二十一名の欠員が生じている。平成二十年三月以降、仙北市消防団として一本化し、適切な人員配置の見直しを考えていく。公務員の消防団への加入については、消防庁からも通知は受けており、有効な団員確保策である。

市職員の本務と消防団としての活動を整理して行かなければいけない。

質問　平成二十年の見直しの時期まで、欠員状況をこのままにしておくのか。新たに何か考えているのか伺う。

市長　欠員の補充については努力したい。二十年三月まで定員まで持っていけるかは難しい。

質問　高齢者への税負担が倍以上になった。事前に緩和策を取り入れるべきではなかったかと思う。この増税により、多くの苦情、問い合わせがあったと思う。高齢者に対する具体的な対応、措置が必要と思うがどうか。

市長　所得によっての軽減措置を考えながらやってきている。三年に渡っての緩和措置を設けながら、総合的で公平な税負担をお願いする。

質問　介護保険要介護認定者への障害者控除対象者認定証の発行について、この権限は市長にあるがどうか。

市長　申請を受けた場合には、申請者の障害程度、医師の診断、職員が個別に確認し認定することになっているので、それに従って取り扱っていく。

質問　人間ドックの受診機関が市になってから限られてきた。受診医療機関の制限のない補助体制にして頂きたいがどうか。

市長　市の財政から市民に対して健康維持の為に支援をして行く、税を使って行く観点から市内にある二つの市立病院と組合病院に補助していく。

質問　市長等の特別職と市議会議員の給与、報酬等の件について、再度引き下げについての市長の所見を伺う。

市長　仙北市として初めて制定した給与、報酬である。引き下げる考えは、現在のところない。

住民の足として必要な内陸線